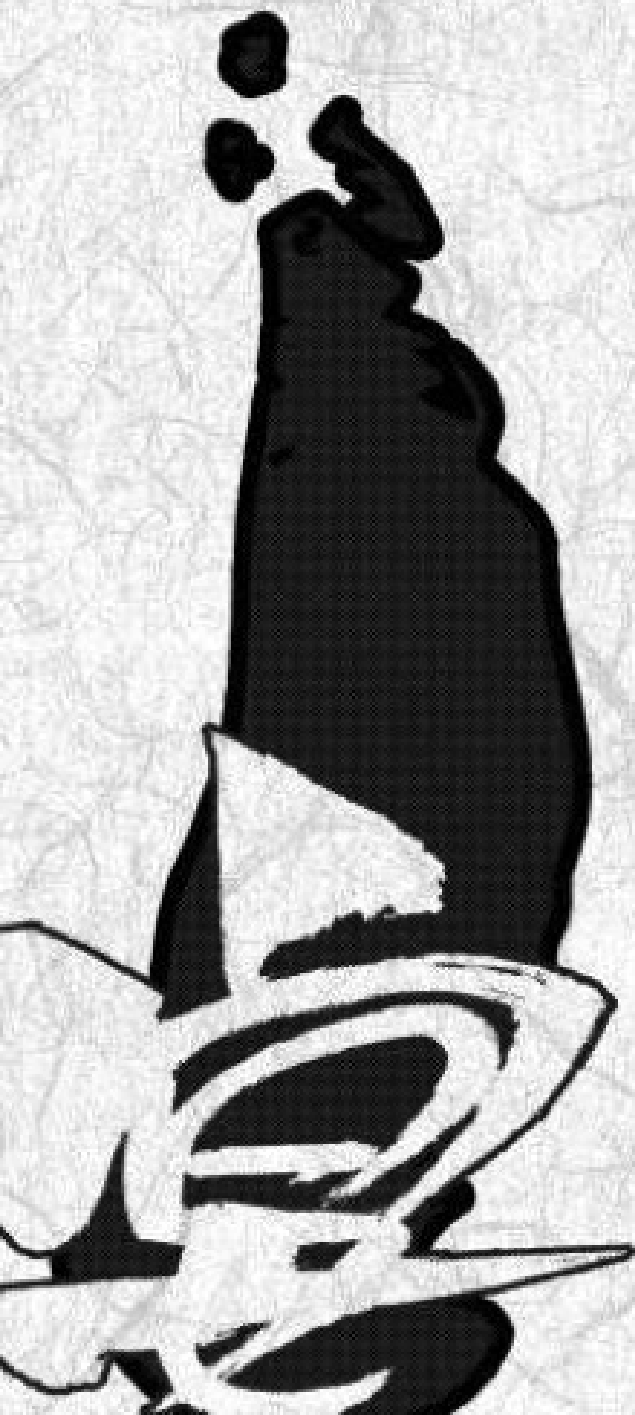


深緑の宴

SHINRYOKU NO UTAGE







その可憐な少女の姿は
僕の心に断を残すので
充分過ぎた

深緑の宴

SHIRYOKU NO UTAGE



ささか...
どうぞ

ははは...
いただきます



う...うん

...冗談だよそんな
しみったれた
顔をするな



こんな若々しい姿のまま
酌をしてやってるんだ
私が盛って事に
感謝するんだな

あ...



ほら
ぼーちゃんも

あ...うむ



やー...それを
言ったらぼあちゃん
にお酌されるっ
てのもなかなか...

いやまさか
孫にお酌される
日が来るとはなあ

別段悪い事だとは思っていないんだ

普通では体験しきれない
沢山の事を
見聞きできるし

この姿であるからこそしんらの傍に居られるしな

…まだ私がお前に見えていない頃はこっそりかつじっくり観察できたし

え…
何それ

お前が笑い算を食べて一人で一日中笑い転げてた所とか

うん…?

お前の親父秘蔵の春画を見つけた時の事と

わー!!
わー!!

まあ…

確かに最初は多少なりとも悩んだりした
ものだが

今はこの姿で居られる事に感謝してるんだ

今こうしてしんらと一緒に刻を過ごしている事が何よりも
幸せなんだよ

ぼあちゃん…





できればそういう話はシラフでは…

あっ…そのっ…ほら！こういう話は酒の席でするものだらう！

いやまだ飲んでないし



…でも安心してよ

ん？



酒に飲まれる前に雰囲気飲まれちゃねえ

ええい！貴様少しは年上を立てる事を知れっ

かーち



そういう台詞はシラフでははけないんじゃないか？

ぼっ…ぼーちゃんがそういう流れにしたんだろ！

しんら…



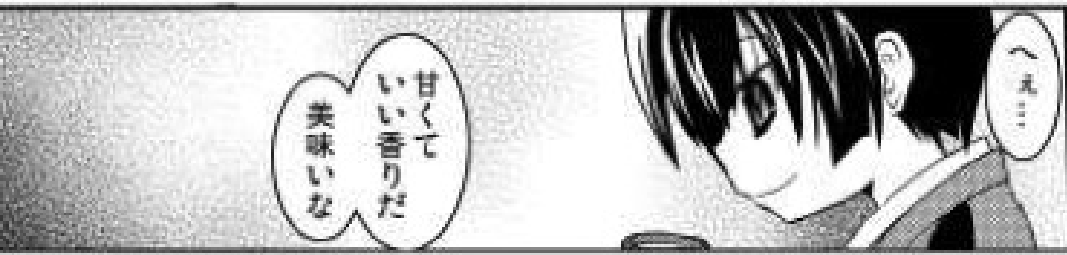
この力の所為でいろんな人を巻き込んだから…ぼあちゃんは特にね

だからそのぼあちゃんにこうやって笑っていてもらえるのは凄く嬉しいんだよ



とっ…ともかく！

飲むよ！ほら！



あの時——

初めてばあちゃん
……というより

見たこともない
可憐な少女

「藤子」を
見た時からだ

この色の
香い緑に浮かぶ
鮮烈な赤と
絹のような白は

物心ついた時から
屋敷から出る事無く
育った僕の心に跡を
残すのに充分過ぎて

ふっ……ふ

はっ……

その姿が頭に
浮かぶ度に

ふっ…

ん しゅん

頭が、体が
熱くなって

んんっ

それを抑えたい
一心で

はっ…

今まで数える程しか
してこなかった
行為をし続けた

うんっ

っ
!!

でも—

この行為だけでは
満たされない
本能だけは
積もっていったんだ

しんら…



おわっ!?

しんら!!

しんら



うーん...

どうした?
考え事か?

女性と一緒に
居ながら上の空とは
たいした大物っぶり
だなあええ?

何か悩みが
あるなら
言ってみな

うーん



何を考えて
たんだっけ

ええと...



...ああ
そうだ



熱っぽくて
まだ全然飲んで
ないのに酔ってる
みたいなの...

なんかぼーっと
して考えが
まとまらないな



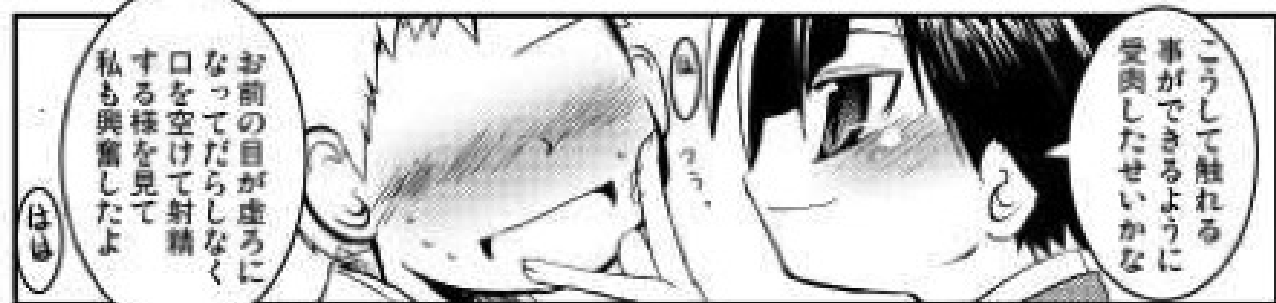


お前が初めて
自慰を知った時も
見ていたし

いつも観ていたと
言ったらどう?

しんらの
何もかもを
見守って
いたんだよ

この数日は
眠を見つけては
前に籠って逸物を
必死に擦っていたな



こうして触れる
事ができるように
受肉したせいかな

お前の目が虚ろに
なってだらしなく
口を空けて射精
する様を見て
私も興奮したよ

はは



この辺り一帯
光酒でいっぱい
なったからな

光酒は命そのもの
草木は生い茂り
動物も活気付く

——当然轟もた



ああああー

なに駄すかし
がることはない



光脈筋に住む者達は湯水のように子を孕むそうだ

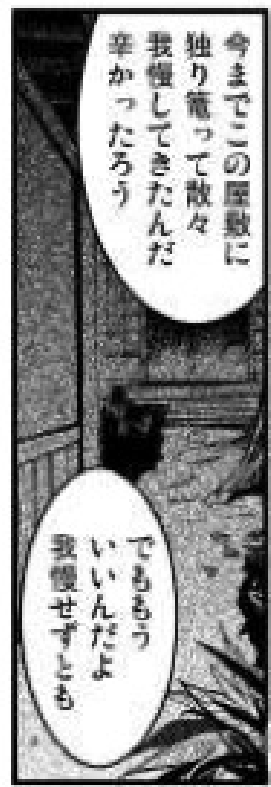
知っているかしんら

活気付いた生き物が発情するのは自然の摂理

そこに雄と雌が居ればまぐわうものだろう



私たちのために在るのだから



今までこの屋敷に独り籠って故々我慢してきたんだ辛かったろう

でももういいんだよ我慢せずとも



ましてや私達は光酒を口にしたんだ

お前の気持ちは何も間違っちゃいないのさ



ぼは...



私…あ
もっ

光酒の精気に
あてられてるん
だろうな

早ぶってどうし
ようもないんだ

そう…こんな
なるくらいに

わ…



そら
しんら

ふん

よしく
見てみな



ここにお前の
いきり立ったの
逸物を挿れてたの

気の済むまで
射精するんだ
興奮するだろう？

ふん









私もっ…
何か来るっ

私っ…

すず

あつ



はっ

あつ

スズ

びくびくして
きたあつ

射精っ…射精するん
だねっ？しんらっ



あつ…あ!

いよいよ
このときっ

あつ

スズ







確かに麻いやばあちゃんは、ずっと僕の事を見守ってくれてたし

そのために人の姿を捨ててまで傍に居てくれて凄く感謝してる

でも

僕のこの力の目付けの為に、ただで何十年も過ごしてきたって、いうんじゃ悲し過ぎると思うんだ



まああと、肉親というか祖母を好きになっちゃうって、なんかばつが悪いとか、というかなんというか

ぶ



だからばあちゃんには僕の保護者として、じゃなくてばあちゃん自身のためにここに在って欲しいから

「ばあちゃん」じゃなくて「麻子」って呼びたいなと思っただ




光酒の精気にあたりたり、何十年ぶりに急に洪水のような感覚の波がきたせいかな、頭が動いてなかったようだすまん



はははは！
確かにそうだな！

息子ならともかく、孫との近親相姦など、長年生きてきても聞いた事がない！

近っ!?



これからは「麻子」と
呼んでくれて
構わないよ

しんらの口から
その響きを聞くと
とても安心する



じゃあこれからは
ばあちゃんや麻子の
ために生きなきゃね

はは
そうだな



とりあえず私が見聞き
した事全て体験するまでは
付き合ってもらうからな
よろしく頼むぞ

…覚悟しておくよ

— 終 —





奥付

06.9.26

sunshine creation 33

深緑の宴

発行

MASULAO MAXIMUM

風川なぎ

<http://masulao.aquasky.jp>

masulao@img.jp

メール、WEB拍手にて
感想、叱咤激励受付中。
罵詈雑言は無い方向でw



MASU
MAOXI